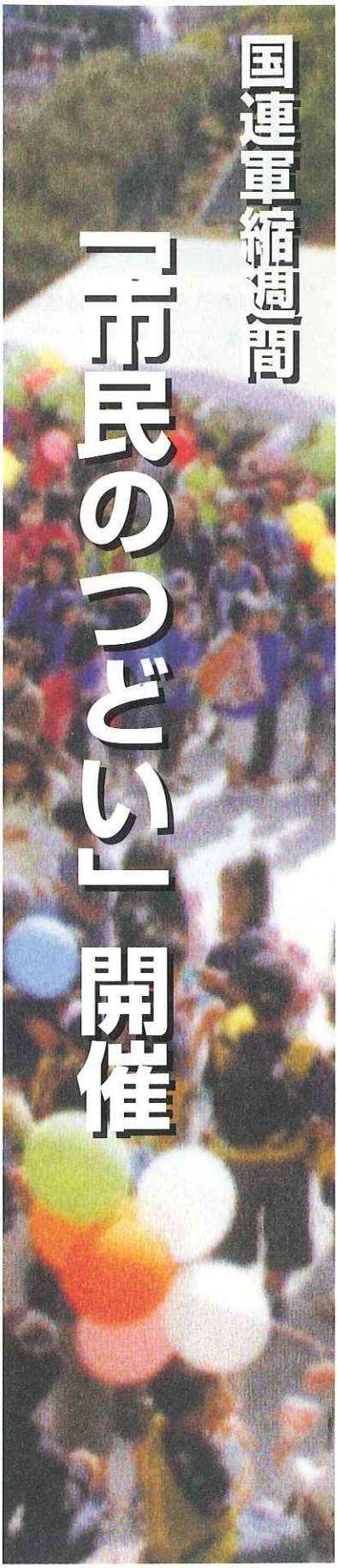
ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

116号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922　FAX(095)844-9961
http://www.peace-wing-n.or.jp

■国連軍縮週間「市民のつどい」
■テネシー大学で被爆体験講話
■「海外原爆展」最終報告
■海老名香葉子氏講演会
■原爆遺跡・慰霊碑めぐり
■ヒロシマ・ピース・ボランティア来崎



国連軍縮週間 「市民のつどい」開催

国連の設立を記念して毎年10月24日からの1週間が国連軍縮週間と定められており、これにあわせて10月27日に「市民のつどい」を開催しました。当日は多くの参加者により会場は大いに賑わいました

合唱と演奏で歓迎
～合唱と音楽の調べ

「市民のつどい」会場となった原爆資料館入口近くの広場では、ギターやアコーディオンを手にした音楽部会員が、歌と演奏で参加者を迎えてくれました。

わた菓子やポップコーンに殺到する子どもたちに押されるように、戦時食コーナーの団子汁を目指す大人たちも、部会員が奏でる演奏や合唱に耳を傾けながら団子汁の順番を待っていました。

今回も、舞台や音響装置もない屋外の会場にも関わらず、音楽の持つ和みの調べで会場の雰囲気作りに大きな役割を果たし、歌声は青々とした秋の空に響き渡っていました。

紙芝居と献吟で平和を願う
～紙芝居・詩吟コーナー

日頃は平和案内人として、修学旅行生や観光客の案内に多忙な毎日を送っている案内人有志で構成され、自主事業として発足した「紙しばい会」のメンバーによるコーナーも、初めて設けられました。

継承部会の被爆者をモデルにした紙芝居劇には、市民大行進に参加した小学校の子供たちや、修学旅行で爆心地を訪れた高校生などが足を止めて熱演に見入っていました。

また、普段あまり聞きなれない詩吟にも興味を示していたようです。

「紙しばい会」のこれからの活躍に大いに期待したいものです。

祈りの翼に心をこめて
～折り鶴コーナー

多くの市民や観光客で混雑する屋外会場の一角に設けた折り鶴コーナーは、今年もおおぜいの人たちで賑わい、特に、外国人観光客の参加も多く見られました。

国際交流部会員の流暢な外国語と折り方の指導で、慣れない折り紙作業に挑戦した外国人参加者は、日本人の観光客と一緒になって、見事に〝鶴〟に仕上げて喜びの声を上げていました。

このようにして、参加者が折り上げた鶴は部会員らの手により、千羽鶴に仕上げる作業に入っています。

千羽鶴として完成した後は、

核兵器廃絶と世界恒久平和を目指す被爆地長崎からの願いとして、毎年、各国の首脳や著名な平和運動家、団体などに送られています。

今回は、再度アメリカ合衆国のブッシュ大統領に届くようにと、仕事の合間をぬった作業が続けられています。

被爆の実相を伝える
～原爆被災写真展

原爆落下中心地碑を見下ろす会場の入口には、写真資料調査部会の手によって、長崎原爆の被災写真が展示されました。

この日は、部会員が写真の説明役を担い、訪れた人たちに破壊された当時の街の様子を詳しく語ってくれました。

戦時中の生活を体験
～戦時食コーナー

人が生きていくための気力・体力の源となる「食」を通じて太平洋戦争当時の人たちの生活に思いを馳せてもらおうと、当日は朝早くから長崎県地域婦人団体連絡協議会と活水高校平和クラブのみなさんが協力して一生懸命に準備をしてくれました。

市民大行進を終えた人たちなどで大いに賑わった会場のあちこちで多くの参加者が用意された団子汁や当時ものを再現した数種類の料理の試食をしていました。

若い人や子供たちにはあまりなじみがない料理ばかりで、なかにはいままでに見たことがない食材もあり、最初はおそるおそる口に運んでいるようすでしたが、当時よりも材料や調味料がよくなったこともあるためか想像していたよりもおいしいとの感想も聞かれました。

ゆっくりと味わえる平和な時代に生きる現代人と比べると、戦争という不安定な時代に生きた人では味の感じ方もずいぶんと違ったものだったのかもしれません。

飛び立て！平和へのメッセージ
～風船コーナー

風船コーナーでは、水に溶けやすい材料で作られた安心して空へ飛ばすことができる紙風船を用意して、参加者のみなさんに平和へのメッセージを書いてもらいました。

当日は小さい子供から大人まで多くの人たちが色とりどりの紙風船に平和への願いをつづり、また、外国の人たちもそれぞれ母国の言葉でメッセージを書き込んで、想いをこめて青く晴れわたった空に飛ばしました。

すると数日後、鹿児島県の肝付町役場から当協会の名前の入った紙風船が届いたという連絡がありました。おどろいたことに、長崎から飛び立った小さな紙風船が風に乗って橘湾を越え、桜島を見下ろしながら遥か大隅半島まで旅をしていたのです。

とても小さな紙風船だったのですが、長崎の想いをこめた平和のメッセージを、遠く離れた町に住む人の心にも届けてくれ

「肝付（きもつき）町」ってどんなところ？

肝付町は平成 17 年に旧高山町と旧内之浦町が合併して誕生した大隅半島にある海と山に恵まれた町です。

人口 2 万人に満たない小さな町ですが、日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられた内之浦宇宙空間観測所では、ロケット施設の見学ができるそうです。

アメリカ　テネシー大学で被爆体験講話

本年10月2日午後2時と午後6時の2回にわたり、当協会継承部会員吉田勝二さんがテネシー大学ノックスビル校国際学部インターナショナルハウスで被爆体験講話を行いました。

今回のテネシー大学での被爆体験講話は、平和案内人の浦川さんの御親戚が同校の国際学部国際教育センターの副センター長であることから長崎平和推進協会の活動を知り、同校の国際教育週間行事の一環として実現しました。

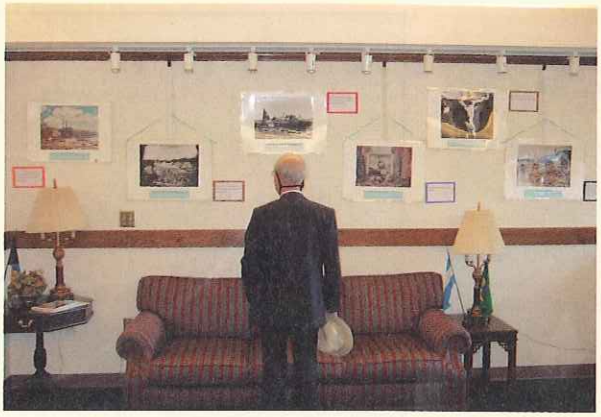
2回実施した講話には学生や現地の人たち、あわせて300名以上の聴衆が集まって吉田さんの講話を聴き、特に原爆の悲惨さ、そして被爆後の吉田さんの人生に心を打たれたようすでした。吉田さんの話が終わると聴衆たちが矢継ぎ早に質問をするなど、現地の人たちの原爆への関心の高さが窺えました。講話終了後は多くの聴衆が吉田さんを取り囲んで握手を求め、直接話ができたことを喜んでいるようすでした。

被爆体験講話のほかにも同校のインターナショナルハウスで被爆写真パネルを展示したり、日本の被爆者の取材を企画している同校看護学部の人たちと話し合うなどさまざまな活動を行いました。

原爆を投下した側のアメリカの学生たちが今回の被爆体験講話にどのように反応するのかと思っていましたが、吉田さんの「平和の原点は人間の痛みがわかる心を持つことです。」(The basis of peace is for people to understand the pain of others.)という言葉を何度も確認して書き留めてたり、吉田さんの講話に聞き入る真剣な表情を見ていると、国は違っても平和を大切に思う気持ちに変わりはないのだと改めて実感し、今回の活動に確かな手ごたえを感じました。

大学があるテネシー州はアメリカ南東部の州です

真剣な表情で講話を聴く聴衆たち


展示したパネルを見る吉田さん

「海外原爆展」最終報告

6月27日から約2ヶ月半にわたってスペイン・ゲルニカ平和博物館にて開催していました今年度の海外原爆展は無事終了しました。結果についての報告書が現地から届きましたので、ご報告します。

スペインで唯一の平和博物館であるゲルニカ平和博物館で、追悼平和祈念館として3回目の海外原爆展を開催できたことは非常に意義深いことでした。今回、ベルギーのアントワープやモンゴルのウランバートルからも開催の依頼がありましたが、ゲルニカ爆撃70周年である今年、同じく一般市民に対する無差別爆撃の惨禍にあった長崎・広島の原爆に関する展示を同地で開催できたのは運命的といえるかもしれません。

この原爆展を開催したことに伴い、現地で爆撃に遭った生存者のお話を聞くこともできました。やはり一般市民は傷つき、泣き叫びながら逃げまどったとのことでした。また、長崎からは下平作江氏が被爆者として渡欧し、自身の体験を語られました。博物館の館長であるイラッチェ氏は下平氏の講話を聴いて、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないと熱心に語っておられました。

2児の母でありながら、館長として毎日遅くまでこの原爆展開催のために尽力されたイラッチェ氏をはじめ、開催地の市長や博物館スタッフみなさんのおかげで原爆展を閉幕することができました。おかげで当館の開催する海外原爆展としては来場者数がはじめて1万人を超え、最終的には1万6000人もの来場者をこの原爆展にお呼びすることができました。

今後も世界各地でこのような展示を行い、一人でも多くの方に長崎・広島の惨状をお伝えして、核兵器廃絶の声をあげつづけていきたいと思います。

現地マスコミにインタビューを受ける下平氏

海外青年交流事業

マレーシア　マラヤ大学ザイノール先生が来崎

今年8月、当協会のアジア青年平和交流事業で、昨年に引き続きマレーシアを訪問した際にホームステイを含めた受け入れに全面的に協力いただいたマラヤ大学のザイノール先生が11月22日に追悼平和祈念館に来館されました。

福岡の友人を訪問され、その途中ご家族と共に来崎されたもので、多以良事務局長が原爆資料館と追悼平和祈念館を案内し、原爆や長崎市民の平和希求の想いを語り理解を求めました。

先生は、来年度のアジア青年平和交流事業に期待するコメントを残しながら、再会を約束して次の訪問地へ向かわれました。

海老名香葉子氏講演会を開催！

入場は無料ですが、当選ハガキが必要です。ご応募をお待ちしております。

財団法人　長崎平和推進協会　設立記念事業

海老名香葉子氏講演会

日時：平成20年2月22日（金）
時間：開場午後5時半　開演6時半
場所：長崎市平和会館ホール（3階）

泣いて

笑って

頑張って

『海老名香葉子氏プロフィール』

1933年　東京生まれ
1945年　3月10日東京大空襲にて肉親死別。
1952年　林家三平と結婚。
1980年　夫・林家三平の死後、林家こん平をはじめ、30名の弟子を支え、マスコミでも活躍中。
また二男二女の母でもある。
長男は林家正蔵【こぶ平】（落語家）、
次男は林家いっ平【来春、三平を襲名予定】（落語家）

[応募要項]
往復はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号をお書きの上、下記までお送り下さい。
（はがき1枚につき、お1人様応募できます）
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
※駐車場には限りがございます（71台収容）。なるべく公共交通機関をご利用ください。

[会員優先]　平和推進協会会員優先のため、会員の方は［会員］と朱書き下さい。

[宛　先]
〒852-8117　長崎市平野町7番8号
財団法人　長崎平和推進協会
「海老名　香葉子氏講演会係」

[お問い合わせ]　電話：095－844－9922

[締め切り]　1月31日（木）消印有効

平和推進協会会員の新規加入にご協力を！

㈶長崎平和推進協会では、官民一体となって被爆の実相や平和の大切さを伝えるさまざまな活動に取り組んでいます。

共に「平和」な環境を守り、育て、さらに前進させるために、当協会では新たにパートナー（会員）となっていただく方を募集しています。みなさまのご友人やお知りあいの方に、ぜひ加入のお誘いをお願いします。

ご加入いただける方は、当協会にご連絡いただければ、当協会より必要書類をお送りします。

祈念館だより

祈念館では元ＮＢＣ記者の伊藤明彦さんから寄贈を受けた約１０００本の被爆者の証言音声テープを保存しています。

このテープは伊藤さんがＮＢＣ記者であったころからインタビューをして１巻ずつ作製したものです。

長崎、広島の被爆者はもちろんのこと、ビキニ諸島での被爆者や外国人の証言音声も含まれており、また、放送局の記者のノウハウを持ってインタビューをし、編集、作製したもので、資料として非常に価値が高いものです。しかし、オープンリールという大型のアナログテープに収録されているため、取り扱いが難しく、また、再生機も稀少になっているため、再生することがだんだんと難しくなっています。

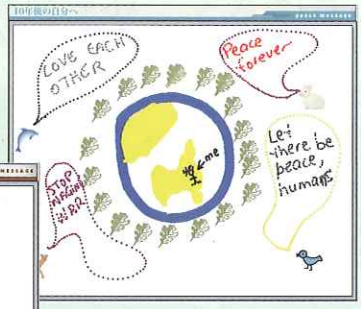
祈念館では専用の機器を所有しているため再生はできますが、部品の入手が難しくなってきており、故障した場合に修理ができないという事態が起こりかねない状態です。また、磁気テープであるため、どうしても経年劣化が起きてしまうことからこのままでは貴重な証言音声を未来に残すことができなくなってしまいます。

そこで祈念館では専門業者に委託して音声を順次デジタル化してＣＤやＤＶＤに録音する作業を進めており、今年も11月から作業が始まりました。現在の計画では平成20年度中にはすべてのテープについて作業が完了する予定です。

保管庫で大切に保管しています

情報コーナー メッセージ

平和の灯を世界中に
ともしていきましょう



私は初めて原爆関連の資料館を見学して、改めて原爆の恐ろしさと被害のひどさを痛感しました。これから社会へ出てゆく私達にとって、戦争の無意味さを切実に訴え続けていくことが責務なのではないかと思いました。

人間は物事を判断出来る動物ですし、平和は誰もが望む世界です。だからこそ、共に分り合い、助け合う事が出来る世界を築く事が出来ると信じています。そのために今、私達が出来ることを考えてみてください。それを意識すれば、同じ過ちや、争いは無くなると思います。

原爆遺跡・慰霊碑巡りを実施

11月25日（日）、さわやかな秋晴れのもと、継承部会碑巡り班及び平和案内人による原爆遺跡・慰霊碑巡り（坂本町・銭座町周辺）が行われ、市民ら約50名が参加しました。

この日のコースは、重傷の身で救護活動に奔走し、病で倒れてもなお「長崎の鐘」などを著作した永井博士の墓地、グラバー家などの国際墓地、聖徳寺や銭座国民学校などをたどりました。

旧浦上町（現在の緑町）出身の原爆犠牲者らを追悼する「原爆犠牲者之慰霊塔」では、全員で黙とうを捧げ、犠牲者の冥福を祈りました。

今回の原爆遺構・慰霊碑巡りを通して、ひとりひとりが世界の恒久平和への誓いを新たにしました。

ヒロシマ・ピース・ボランティア来崎

被爆体験継承のため、広島平和記念資料館などのガイドをしているヒロシマ・ピース・ボランティアの有志21名が11月26日から2日間、長崎を訪れて被爆の実相に関する研修を行いました。

長崎からは継承部会員5名と平和案内人25名が参加、広島のみなさんが到着後、一緒に昼食をとりながら自己紹介をするなど交流を深めました。

その後、平和案内人の案内で原爆資料館や原爆死没者追悼平和祈念館、平和公園周辺の被爆建造物などを見学、広島のみなさんは平和案内人の説明に熱心に耳を傾けメモをとったり、被爆建造物を写真に収めたりしていました。

被爆の実相と平和の尊さを広く後世へ伝えていきたいという想いが双方に共通しているため、大変実りの多い研修になったようで、今後もお互いの被爆地を訪れ、交流を深めていくことを確認し合い、再会を約束しました。

ご寄附ありがとうございました

・匿名　（六千円）
・内田　進博　（一万円）
・第二楽章を語り継ぐ会　（二十万円）
（敬称略）

会員数報告

維持会員	1、299名
賛助会員	174名
学生会員	5名
臨時会員	1名
合　計	1、479名

平成19年12月12日現在

本紙は再生紙を使用しています。
平成十九年十二月三十一日発行
印刷　株式会社　インテックス